

飯舘村第6次総合振興計画策定に関する提案募集（令和2年6月実施）及びパブリックコメント（令和2年7月実施）に寄せられたご意見等に対する村の考え方を次のとおりお答えします。今回寄せられたご意見等は、策定委員会及び事務局で確認を行ったほか、関係する各専門部会の話し合いの際に共有しております。

なお、計画に賛同する旨のみの記載等については今回掲載していないほか、個人名が記載された意見や文字が判読できなかったもの等については一部文章を変更して掲載しておりますので、ご了承ください。

ご意見・ご提案	回答
<p>健康・福祉・環境分野等について 1/3</p>	<p>1. 10年間、村と違った生活をしたので足腰の衰えをなくすために各行政区に集まる場所を造り軽い運動ができる場所を造る。</p> <p>2. いいたてクリニックの週2日は住民としては不安材料であると思う。せめて週5日開院して頂きたいと思う。(午前中だけでも)</p> <p>3. 高齢者のバイクによる弁当配達。買い物代行サービス。</p> <p>4-1. 予防医学に力を入れていただきたい。心身ともに健康で寿命を延ばして欲しいのでお願いしたい。介護保険はしっかり支払っているのに、使わないで生活している人にも何かご褒美的な何かあればうれしいと思う。</p> <p>4-2. 予防医学は大切で、重要に今後なっていくと思います。食に対して、体に対して改めて知識を持つ必要があります。腸内フローラ、Ω3オイル、食のサイクル、プチ断食など日常で取り入れることが健康な体をつくる鍵です。一時的な事では健康は成り立ちませんからね。皆様の意図とは違うかもしれませんが、健康はライフワーク的に取り組めるものを導入されることを希望します。</p>
<p>1. 「健康交流イベント実施事業」としてラジオ体操等の運動系の内容を含む交流イベントの実施を検討する重点事業を設定しました。また、互いの困りごとを助け合う仕組みや家庭菜園・景観保全等、日ごろから体を動かす機会をつくり、健康増進を図ります。</p> <p>2. いいたてクリニックの診療日を増やすことは難しい状況ですが、いいたてクリニックの運営支援、村外の医療機関との連携、通院の利便性確保に向けた検討・取組を継続するほか、「在宅医療推進事業」として在宅医療体制の検討を行う重点事業や、「健康診断受診率向上事業」として健康診断の結果説明会にて病院等の予約ができる体制の構築を目指す重点事業を設定しました。その他、食や運動、交流を通して病気の予防を推進します。</p> <p>3. 「地域お助け合い事業内容拡充推進事業」として、現行の地域お助け合い事業の内容や対象者を拡充する重点事業や、「地域交流キッチンカー事業」として各地域を巡回するキッチンカーによる食の提供を行う重点事業を設定しました。高齢者の出番作り、買い物代行、食の提供等をカバーできる内容で検討します。</p> <p>4-1～4-2. 上記1及び2の回答のほか、介護予防・認知症予防の推進、日常的な健康チェックの促進、心の健康の充実を図ります。また、「健康料理普及拡大事業」として健康的な食生活の増進を図る重点事業を設定しました。</p>	

<p>健康・福祉・環境分野等について 2/3</p>	<p>5. 医療機関、買い物などの施設が少なく不便です。車での移動が自分で出来る内はいいが、これからは厳しいです。今後どうなるのか？不安だらけです。</p> <p>6. 自分のことは自分でできる環境の整備、スーパーや買い物できる場所が近くにあり、自ら進んでえらぶことができる、頭をつかうことのできる場所作りが必要ではないでしょうか。不安なことが一つでも減らせるように考えていただきたい。</p> <p>7. 現在福祉事業に関して村が取り組んで頑張っていますが全体にはまだだと感じます。震災前の民生委員の活動を期待します。</p> <p>8-1. 宅地の草刈りをする組合などを作って欲しい。自分は高齢、子どもも草刈りをしたことがない。</p> <p>8-2. ボランティア協力員の人員を増やす。そして、協力者の若返り。各行政区に除雪機の設置。地域協力員の配置。</p> <p>8-3. 地域住民の減少と高齢化に伴い、景観維持の為に草刈り人不足が厳しくなっています。なんでも行政区に責任と負担をかけないでいただきたい。</p> <p>8-4. 村を離れる人が多い中で特に若人は家の資産が負の資産と考えている人が多いと思う。山・田・畑・家と、特に山・田・畑はある意味では邪魔になる・山などは資産価値がないので売りたいと思う人が多いと思う。山を買ってそこに太陽光を設置すると自然に山が荒れてしまう。山火事が起きる可能性もある。私たちは、今ある自然を大事にし、将来子ども達が帰ってくる環境作りをしていかなければならない。例えば空き家の草刈りとか、行政区内に協力員を募り皆で協力して作業するチームを作る。それに対して村で補助金を設定する。目先も大事だが自然破壊のない大きい目での村づくり、環境づくりをしないと荒れ果てた村になってしまうような気がします。</p> <p>8-5. 今後広大な農地の維持管理は難題だと思う事から景観作物の栽培と農業を結び付けたいと思う（ナタネ、ソバ等）。</p>	<p>5. 「住民主体の移動手手段整備推進事業」として住民が自家用車を使用して実施するタクシーのような事業を検討する重点事業を設定しました。また、「地域お助け合い事業内容拡充推進事業」として、現行の地域お助け合い事業の内容や対象者を拡充する重点事業では、送迎や買い物代行等の内容拡充を検討します。</p> <p>6. 「生きがい農業者等ステップアップ支援事業」として村民による農産品等の道の駅マルシェ（小さな市場のようなもの）の開催等を行う重点事業や、「いいたて食堂プロジェクト実施事業」として飯館村の郷土料理や給食を食べられる食堂のような場所の整備を検討する重点事業を設定しました。その他、高齢者の出番作り等を推進し、村民同士で色々な支え合いや事業の実施を行う内容も多く、自ら選び、頭を使うことができる機会も増えていく計画といたしました。</p> <p>7. 福祉分野については、民生委員の方による地域の見守り体制の維持について計画に記載しているほか、福祉人材の確保等、各種事業等を通して改善・拡充していく計画といたしました。</p> <p>8-1～8-5. 草刈りや除雪等については、「地域お助け合い事業内容拡充推進事業」として、現行の地域お助け合い事業の内容や対象者を拡充する重点事業の中で対応できるようにしていくことといたしました。また、「景観形成推進事業」として村の美しい景観を保全・継承する重点事業を設定したほか、本年7月に太陽光発電設備の新設を規制する「いいたて美しい村づくり推進条例」を施行しましたので、景観や自然環境に配慮した村づくりを進めていきます。</p>
----------------------------	---	---

<p>健康・福祉・環境分野等について 3/3</p>	<p>9. しいたてホームの労働力不足を解消するには、給与体系の改善は必要であると思う。また、人材派遣会社に依頼することも必要ではないか？</p> <p>10. 村外へ移った方でも村への関わりが持てるような取り組みをして欲しい。(村へのサポーターを募集する等)</p> <p>11. 現在村に住んでいる人口は約1,500人と聞く。その年齢構成は承知していないが殆どは高齢者だと思う。従って村の復興再生には高齢者の役割が大きく、高齢者が生き生きと楽しく安心して暮らしていく事が重要。しかし、元気老人は別としても多くは「ステイホーム」。高齢者の「役割づくり」「出番づくり」「生きがいつくり」「交流の場づくり」が重要かと。特にこの5年間は。</p> <p>12. ごみ箱が小さすぎてゴミが収まっていない所が目立ち、カラス等にイタズラされている様です。ゴミ箱をもっと大きく使いやすくしてほしい。</p>	<p>9. しいたてホームについては、給与体系変更や人材派遣会社の活用を含めて検討を続けてきたところですが、今回の計画で「しいたてホーム人材確保推進事業」として重点事業を設定し、労働力不足改善に向けてさらに力を入れることといたしました。</p> <p>10. 「地域お助け合い事業内容拡充推進事業」として、現行の地域お助け合い事業の内容や対象者を拡充する重点事業の中で、村外の方でも支援者となれるように検討を行います。また、キャッチフレーズである「ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも しいたて村」という言葉には、どのような住み方でも村づくりに関わりやすい環境づくりを行うという意味を含んでおり、村外居住や二地域居住の方がこれまで以上に村と関わりやすくなることを目指す計画といたしました。</p> <p>11. 今回の計画において福祉分野のテーマは『「出番」を作るしかけづくり』と設定し、高齢者を含む村民の出番・役割づくりや生きがいつくり、交流の場づくりを積極的に行うことといたしました。</p> <p>12. 地域でゴミ置場を点検し、村で補修や再設置の支援をする旨、計画に記載しました。また、「ゴミ減量推進事業」として、ゴミの減量を重点事業として設定しました。</p>
----------------------------	---	--

<p>産業・観光・移住分野等について 1/3</p>	<p>1-1. 避難解除しても一向に商工業が村内に戻らない。戻るための施策を考えなければならない。(戻る企業に援助する等)</p> <p>1-2. 村内には働く場がほとんどない。工業団地を整備し、大企業を含め誘致し、村外からも働く人が集まれば、村にも活気が出ると思う。</p> <p>1-3. 村内にはコンビニしか商業施設がなく、浪江町のような自治体の援助によって誘致した例もある。誘致できれば、帰村する材料にもなり、重要な課題である。</p> <p>2. 白石の旧ローソン跡地は誰が見ても村の一等地です。こんな素晴らしい場所を、村が買い取ってでも、交流・観光の場へと活用すべきと切に願います。</p> <p>3-1. 飯舘の方は器用な人ばかり。手作品はありますが、野菜の加工品など帰村している方の加工場を設けて道の駅に販売してはどうか。</p> <p>3-2. もりの駅まごころに加工施設を整えナタネ、エゴマの搾油施設、ソバ、小麦等の製粉施設等、村民の誰でもが利用出来る施設が有ればと思う。</p> <p>3-3. イベントなどで手作り菓子。フキ、インゲンなど地物が活用できるようになると良い(インゲン菓子のサクサク感、今では懐かしいです)。</p> <p>4. ふるさと納税等を活用した外部協力者の整理といたて村セールスの見える化、予算や人手、色々なものが制限される中でいたてを誰に何をどう売っていくのか、協力してもらうのか。ターゲットを明確にしてセールスをしていく必要があると思う。ふるさと納税者や協力者の把握と分析、そしてそれを関係者が認知することで、より、いたてを応援しやすくなるだろうか? 農産物等を購入してくれる人、観光に来てくれる人、そして移住する人、それらは段階的な「いたてファン」作りのようなものであると思う。</p> <p>5. 廃校を利用して芸術家やクリエイター等の活動拠点を作りたいと考えています。そのプロジェクトの一部として、有料のラウンジを作ろうとしていますが、村に住所のある方は割引で利用できるようにしたいのですが、その割引制度を継続できるように補助金があると嬉しいです。このプロジェクトにて、首都圏等から人を集めてのイベントや居住スペースの内覧会なども予定しているので、交通費等の補助があるととても助かります。</p>	<p>1-1~1-3. これまでも事業を再開する事業者への支援や創業の支援、道の駅の直売コーナー改善等を実施してきたところですが、今回の計画においても事業再開や創業の支援及び企業誘致等を行うことといたしました。具体的な内容については、今後の事業実施の際に検討いたします。</p> <p>2. 今回の計画では、既存の公共施設の有効活用を重点的に実施いたしますが、いただいたご意見は今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p> <p>3-1~3-3. 「生きがい農業者等ステップアップ支援事業」として村民が使いやすい農産物の加工場の整備や、販売場所の整備等を実施する重点事業を設定しました。加工品の活用等、具体的な内容については、今後の事業実施の際に検討いたします。</p> <p>4. ふるさと住民等の関係人口を増やし、交流を深める仕組みを検討します。また、「観光・交流事業検討チーム設置等事業」として村外への効果的な情報発信を行う等の内容の重点事業や、「健全財政維持検討事業」としてふるさと納税の活用に関する重点事業を設定しました。</p> <p>5. 「交流会等開催支援事業」として新しい村民が村の魅力を発表する場に対しての支援等を行う重点事業を設定しました。ラウンジの利用料の補助等については、今回の計画の中に含むことができませんでしたが、いただいたご意見は今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
----------------------------	--	---

<p>産業・観光・移住分野等について 2/3</p>	<p>6-1. 村内には、村内の住民ですらわからない魅力的な場所が有ると思います。それを皆さんに見てもらう。</p> <p>6-2. 村内の神社、湖、ダム等の写真とかを！</p> <p>6-3. よくあるパターンでパンフレットは良く出来ているのですが、現実が残念にならないように（ギャップが少ないように）あってほしいです。信頼をなくさないことは大事です。</p> <p>6-4. 観光ツアー、スタディツアーには北川フラムさんのご意見を入れて欲しい。北川フラムさんの力はアート界限では大きな力を持っている。歴史や文化をアートの力で見やすくすることでよりいいたてを理解しやすくなると思う。</p> <p>7-1. 移住待ちの方が多くいるという話を聞きます。家の売買や賃貸の募集を担うようなHPや宣伝があれば良いと思います。移住希望者の受け入れが出来るようになれば良いと思います。</p> <p>7-2. 空き家の解消（自分が住まない・住んでいない建物等を売却するなりして解消してほしい）</p> <p>7-3. 移住に関して「手頃な物件がない」、これ致命的であつたりします。最近では中古物件を安価で手に入れてDIYでリフォーム、リノベーションまでしてしまう方がいます。そういう方に移住の希望もあつたりしますが今飯舘には物件がほぼない状態です。物件の提供・・・難しいのですかねえ・・・</p> <p>7-4. 原発後、避難解除になり少しずつ村に戻る感じですが若い世帯の帰村がないのが残念。移住も積極的に。</p> <p>8. ちょっといい食や暮らしの再発見、共有して発信する仕組み作り、山菜料理から夏の高原野菜、秋のキノコ料理から冬の保存食まで、郷土料理から子どもを持つお母さんのレシピを村民が共有できる仕組み、農村に近い、農文協の雑誌「うかたま」や「住む。」などとタイアップしてレシピをブラッシュアップさせながら食を通じていいたてをアピールできないか。食だけでなく、田舎ぐらしをしたい人から見てちょっとうらやましい暮らし方、そば打ちやDIY、古民家ぐらし、多様な野菜づくりなど、雑誌を通じて外から良い評価をもらう中で食や暮らしが、より深まっていく可能性を見せ、高める。</p>	<p>6-1～6-4. 「観光・交流事業検討チーム設置等観光推進事業」として、村外向けパンフレット・ホームページ等の総合的な見直しや効果的な情報発信、観光ツアーやスタディツアーのプラン作成、芸術による関係人口創出やSNSによる村のPR等の新しい取り組み等を検討・実施するチームの設置や、観光協会の設置検討や文化財・観光スポットの看板整備等を行う重点事業を設定しました。</p> <p>7-1～7-4. これまでも空き家・空き地情報については村ホームページに掲載してきたほか、移住希望者向けのパンフレットを作成する等、移住者受入について取り組みを進めてきたところですが、今回の計画では「移住」という分野を設け、これまで以上に村への移住受入を推進する内容を盛り込みました。また、「空き家・空き地利活用促進事業」として空き家のリノベーションイベントや移住者の受け皿拡大等のための活用を含めて空き家・空き地の利活用を推進する重点事業を設定しました。</p> <p>8. 「健康料理普及拡大事業」として郷土料理や村産品を使用した料理・各家庭のレシピ等について収集・活用等を行う重点事業や、「村民取材班導入事業」として郷土料理の作り方等を撮影・発信等を行う重点事業等により、村民が共有できるような仕組み作りを行います。その他、上記6-1～6-4の回答のとおり情報発信や、上記7-1～7-4の回答のとおり移住・空き家活用にも力を入れていくことにいたしました。</p>
----------------------------	--	--

<p>産業・観光・移住分野等について 3/3</p>	<p>9-1. 戻った村民、移住した方、村外へ移った方、全員が集って色々行えるようなイベント等開催するのもいいのでは？</p> <p>9-2. 避難前のような体育大会など力を合わせて行うことも大切と考えます。</p> <p>10. 昨今では里山の管理が問題となっており、それが少なからず防災の面にも影響を及ぼすということも言われております。当村にはご承知のように広大な官林・民林を有しております。この資源をどうにか活かさないものかと思うわけでございます。例えば、森林の保全として、間伐を実施することで、間伐材という林産物が生まれます。発生した林産物の活用として挙げるのが燃料化であります。木質ペレットも一つであります。さらに高エネルギーが得られるための精製・燃料化の研究開発の拠点設置の誘致の検討はいかがでしょうか。戦時中、資源のない日本ではかつて木炭バス（自動車）が走っていました。当時の木炭バスは技術的にも未熟で不具合が多かったと祖父から実際に乗車したときの様子を聞いておりますが、80年が経ち技術力も目覚ましく発展した今、現代版木炭バスが生まれたなら、温室効果ガスを多量に発生する化石燃料を使用しないわけで、その先には建設分野にあります移動手段に係る設備の燃料に使用することが確立されれば、まさに循環型社会の実現であり、これは画期的なことと申せましょう。原油を精製することで重油から純度を高くしたジェット燃料があるように、林産物燃料の高度・多目的化に村全体として貢献できれば素晴らしいことであり、必ずや後世へ名誉が語り継がれるのではないかと思います。先般、木質バイオマス施設の公募がなされたようですが、雇用創出や新たな産業の育成や所得向上の可能性、景観や防災への波及効果など、多岐にわたり期待されるものと考えます。第6次総合振興計画への提案という内容から逸脱の感があり恥ずかしい限りではありますが、思いましたことを申し述べてみました。</p> <p>11. フレコンバックの数の推移と今後の搬出計画。基本認識として絶対に必要なことだと思います。汚染土等が入ったフレコンバックがいつなくなるのかは、村民及び村に移住を検討している人にとっても大事なことです。</p>	<p>9-1～9-2. 「交流会等開催支援事業」として新しい村民を含め、村民による交流会の開催支援等を行う重点事業を設定しました。また、スポーツイベントの開催や交流拠点としてスポーツ公園等の利活用促進について、計画書に記載いたしました。</p> <p>10. 森林の保全や林産業の促進を行う旨、計画に記載しました。持続可能な暮らしの推進や景観の保全、バイオマス発電の実施等も踏まえながら、今後の事業実施の際に検討させていただきます。</p> <p>11. 搬出の実施や搬出予定の公表は環境省が行っているため計画書には記載しませんが、国に対し除去土壌の早期搬出の要望を継続する旨、計画書に記載しました。</p>
----------------------------	--	--

<p>教育・文化分野等について 1/1</p>	<p>1-1. 避難先の子どもが通っている小学校では小3から自治体の教育委員会が作った地元を題材にした教科書があり、それを通じてふるさとを学ぶ。 震災前後で変わったことはあるが、飯舘を学べる時間があるといい。その教科書は避難先の子どもにも配布し、見て貰う。飯舘の学校に通う子ども、それ以外の子どもが共に学ぶワークショップなどをできないか。大学生や大人も含めた「地元ワークショップ」を子ども中心に行い、民俗知やふるさとを共有できる場所をつくる。新しい飯舘を作るために震災以前のいいたてを共有する場、整理する場は継承と一度失ったいいたてには必要なことだと感じている。</p> <p>1-2. 小学校の社会では昔の暮らしや文化を学びます。ある程度教科書等で学習することができますが、実際に見て学ぶことが大切です。そこで、空き教室等を利用して、各家庭にある古い農具などを寄付してもらい、歴史資料コーナーみたいなものを作ってはいかがでしょうか？</p> <p>2. 村出身者の職場を訪れて、見学を行う。飯舘中学校の卒業生を呼んで、職業、働くことについて学ぶ。</p>	<p>1-1～1-2. これまでも学校では「いいたて学」という教科を設け、飯舘村について学ぶ時間を設定しておりますが、今回の計画についても「ふるさと教育の充実」として、村の歴史や文化、産業など、飯舘村についての理解を深める教育を充実する旨、計画に記載しました。また、「いいたて物語プロジェクト実施事業」として地域の伝承や震災の経験等を紙芝居にして上演する劇団の育成や、ふるさとを学ぶ学習会の開催等を行う重点事業を設定しました。その他、村内の公共施設等に農具等の資料コーナーを設置する等、今後の事業実施の際に検討いたします。</p> <p>2. 子どもが自分で将来の生き方を考え、選択できるよう、職業に対する理解を深める教育を充実する旨、計画に記載いたしました。具体的な内容については、今後の事業実施の際に検討いたします。</p>
-------------------------	--	--

<p>防災・建設・行財政分野等について 1/1</p>	<p>1-1. 村内在住の消防団員が足りない。OBでも活動出来る体制を！目先に消防車両が有っても万一のときに使えない！</p> <p>1-2. 全国的にため池の決壊による被災が増えてきているので、地域によってはため池に水位計等の観測機器を設置して遠隔でも確認できるようにすると良い</p> <p>1-3. 地域での交流がなく、家中での生活時間が長くなっている。高齢になってくるので何かと不安が多い。村で独自の通信サービス（情報・緊急連絡など）を無償で考えて欲しい。</p> <p>2. 復興事業などでの施設造り、その後の維持管理を村民に負担がかからないようにしていただきたい。村の人口が少なくなっているのに、税収は少ないのでは？収入なくなるのに税金が高くなるのは困ります。</p> <p>3-1. 基礎的数値、特に村の将来人口を何人と想定（目標）するか。2千人とするか6千人とするかでは、今後の村づくり、政策、政運営、行政区の在り方・・・等あらゆる面に於いて計画策定にあたっては大きく違ってくる。非常に重要な事と思う。（将来人口には「拘らない」という事のように・・・）</p> <p>3-2. 帰村者が激減していますが、これから増える、増やせる（移住者）目安はあるのでしょうか？今年の3月末で一区切りがついたと思いますが、増えている様には見えません。若い人も戻ってきません。子ども達も、学校は助成があるから村外から通ってきている方もいると思いますが、親たちは帰ってこないですか？帰村している方、高齢者の方に負担のかからない行政改革を願います。</p> <p>3-3. 児童生徒の推移のグラフ追加。基本認識として絶対に必要なことだと思います。</p> <p>3-4. 人口シミュレーション2パターン。1) 住民基本台帳ベース、2) 村内居住者ベース。基本認識として絶対に必要なことだと思います。条件をキチンと設定すれば、できるはずです。復興計画では行っていたと思います。</p>	<p>1-1～1-3. 「地域防災力向上事業」として行政区ごとの避難計画・ハザードマップを作成や人口減少・高齢化を踏まえた地域防災体制の再構築を目指す重点事業を設定しました。また、「防災力強化事業」として緊急時の情報伝達手段の整備等を行う重点事業や、「消防体制充実・強化推進事業」として村内企業による消防隊の設置や村消防団本部事務所等を整備する重点事業についても設定しました。これらの重点事業を中心に、村全体の防災力を総合的に高めます。</p> <p>2. 現在、村は健全財政を維持しておりますが、今回の計画書では今後の村の借金の返済の見通し等についてもお示しいたします。また、「健全財政維持検討事業」として限られた財源の有効活用や村財政状況の村民周知を図る重点事業についても設定いたしました。</p> <p>3-1～3-4. 人口、村内居住人数等については推計が困難であること及び帰村の強制という誤解を招く恐れがあることから目標等の設定は行いませんでしたが、今回の計画策定については現在の人口及び村内居住人数を想定して検討を行いました。計画の実施段階では、帰村や移住の状況を踏まえながら事業内容を随時検証するとともに、令和5年度には計画全体を見直す機会を設けます。なお、今後についても、これまでどおり帰村の強制は行わず、帰村したい・移住したいと思って貰えるような魅力的な村づくりを継続するほか、村内に居住された方だけでなく、村外居住・二地域居住の方が村づくりに関わっていただける村づくりを目指します。</p>
-----------------------------	--	---

<p>その他、計画全体について等 1/4</p>	<p>1-1. 飯舘村は今一番、有名な村。このチャンスをいかさずどうする。どうせめざすなら飯舘町。小さな所で戦っても何も変わらない。</p> <p>1-2. 飯舘村の復興には分野分けせずひとつのチーム作りをすべき。井戸の中の蛙ではダメ。発展を望むなら、誰も中途半端は求めていない。なにもかもが田舎っぽい。(ダサイ)</p> <p>1-3. 目立つのじゃなく、目を引く(インパクトのある建物)、飯舘村の建築物(全部ダサイ)目立つ事もなく目を引く事もない。</p> <p>2. 資料もう少し年配にもわかるようにしてほしい。カタカナが多い。理解力のない人にもわかりやすくお願いします。</p> <p>3. 今回の総合振興計画策定過程においては、第4次・5次であった地区別計画の策定がないため、村民の方が集まって飯舘村や地域の今後について話し合う機会が全くと言っていいほどありません。また、新型コロナウイルスの拡散防止のため、策定委員会・専門部会の傍聴中止、福島市等での説明会(懇談会)が中止となり、策定委員・専門部会委員の皆さんの想いを聞くチャンスもありません。最近会った20名以上の方に、第6次総合振興計画について聞いてみました。よくわからない。興味が無い。地区別計画いつやるの?などの回答です。この計画に基づいて、飯舘村民一丸となって飯舘村を盛り上げていこう!とは全く感じません。9月議会にて、飯舘村第6次総合振興計画を決議すると聞いていますが、時期尚早です。福島県総合計画も、12月から、来年9月に策定延期となりました。状況にあわせ、柔軟に対応することが、飯舘村の将来のためです。9月議会に間に合わせる必要は全くありません。来年の3月議会、6月議会でもいいじゃないですか。せつかく策定委員・専門部会委員の皆さんが計画した案ですので、より多くの村民の方に伝え、そして、意見交換しながら、より良いものにすべきです。当初計画していた住民説明会等を行い、地区の中でも、各種団体でも、この計画案を検討いただき、もっともっと住民主体・住民本位の計画になることを願います。(新型コロナウイルスの影響で・・・という言葉は聞きますが、であれば、策定時期を遅らせるべきです。その影響があったことを理解しながら、計画通りに進めることが、間違っています。住民主体・住民本位ではありません。)</p>	<p>1-1~1-3. 今回の計画では、発展ではなく、農村風景等の今ある魅力の再発見や持続可能な暮らしの推進、インパクトのある建築物建設よりも飯舘村らしい景観の保全等を行うこととしましたが、いただいたご意見は今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p> <p>2. わかりやすい言葉への変更や注釈の追加等を行いました。今後もカタカナ語等について配慮していきます。</p> <p>3. 村民が集まって飯舘村や地域の今後について話し合う機会は非常に重要であることから、「行政区地区別計画の策定」として第5次総合振興計画のような地区別計画を3年程度かけて策定する重点事業を設定しております。さらに、計画の実施の際には毎年度の検証及び令和5年度の全体的な見直しを行うことで、状況に応じてより良い計画となるよう、柔軟に対応していきます。また、今回の計画の策定の際には、2回のアンケート、各行政区を対象とした地域別懇談会、村全体を対象とした中間報告会や講演会、広報誌や広報お知らせ版による途中経過等のお知らせ、策定委員会の傍聴や議事録の公表、パブリックコメント等を実施しており、村民への周知等に努めて参りました。なお、令和2年9月議会における議決を目指す策定スケジュールにつきましては、令和3年度当初から円滑に計画を実施できるように予算編成を行うためのものです。</p>
--------------------------	---	--

<p>その他、計画全体について等 2/4</p>	<p>4. 「ものは引き算 ころは足し算」の利用について、出版社に確認が必要では？ 「50過ぎたら、ものは引き算、心は足し算」という書籍があります。キャッチフレーズに使用することは問題ないと思いますが、出版社に事前に言って使ったほうがよいのか、それとも、この言葉は、言わずに使っても良いのかコンサルタントに確認したほうが良いと思います。</p> <p>5. みんないいかもいいたて村について、2地域居住も含めてOKということですから、いいかもではなくて、いいよと断定して良いと思います。</p> <p>6. 今回のパブリックコメントの募集についてですが、村ホームページには、令和2年7月17日付で案内されています。飯舘村お知らせ版（7月5日号、7月20号）を見てみると、パブリックコメント募集についての広報が一切ありません。飯舘村の今後の振興計画策にかかる大事なパブリックコメントの募集を、見る人が限定されるホームページのみにて案内すること自体が間違っています。飯舘村は、まだ、村民の70%以上が村外に避難しています。この計画（案）を印刷したうえで、全戸に配布し、パブリックコメント用の返信封筒などを同封し、また、インターネット上でもパブリックコメントが入力できるフォームを作って、広報・募集する体制を整えてから実施するぐらいのことをしなければ、村民に伝わるはずがありません。パブリックコメントの方法を見ると、スケジュール達成が第一の目的になっている気がします。せっかくここまで来たのですから、もったいないです。9月議会にこだわらず、12月もしくは3月議会で、策定するぐらいにスケジュールを変更しましょう。</p> <p>7. 1.キャッチフレーズ 引き算、足し算、ちょっと住む～のキャッチフレーズでは目指すべき村の方向性は見えない！毎日マスコミを賑わす一方、今の村は静かに危機的状況が進行しているはず！もっと危機感を持ったフレーズにすべきだ！ &lt;例えば&gt; “基盤をつくる 所得を上げる” ー共に生きる いいたて村ー &lt;理由は&gt; 山田・斉藤村政は基盤をつくりながら寡黙なまでに所得を上げるために産業振興をしてきた。いま震災で基盤である土地も道</p>	<p>4. 類似するフレーズであったことから、念のため著者及び出版社に確認を行い、承諾をいただきました。</p> <p>5. 「いいかも」という言葉は「いいよ」と同様の意味で使用しております。「いいかも」のほうが語呂が良いと考えておりますのでフレーズは変更しませんが、意味が誤解されないよう、計画の趣旨について周知を継続いたします。</p> <p>6. パブリックコメントに先立ち、計画の基本方針や重点事業等についてのアンケートを、返信用封筒を同封し、郵送にて6月に全戸配布により実施いたしました。この全戸配布した資料とパブリックコメントで公表した資料について、主要な部分の内容が概ね被っていることから、パブリックコメントについては全戸配布ではなく、村ホームページの入力フォーム及び役場窓口・いちばん館・ふれ愛館に回答用紙・回収ボックスを設置するという方法で実施いたしました。なお、令和2年9月議会における議決を目指す策定スケジュールにつきましては、令和3年度当初から円滑に計画を実施できるように予算編成を行うためのものです。</p> <p>7. ○キャッチフレーズ等について 今回のキャッチフレーズについては、計画の策定前ではなく、策定中に話題が上がった課題や村づくりの方向性を基に、策定途中に決まったものです。今後の村づくりに必要な考え方という観点や、話題性や覚えやすさという観点から、策定委員会で賛成意見があったキャッチフレーズの候補を組み合わせ作成したものですので、キャッチフレーズの変更は行いませんが、いただいたご意見は今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。なお、健全財政の維持については「ものは引き算」、コミュニティ強化等については「ころは足し</p>
--------------------------	---	--

<p>その他、計画全体について等 3/4</p>	<p>路もコミュニティ等も壊れ、仕方なく多くの村民が村外に住むことになった。右肩下りのコロナの経済のいま、あたりさわりのないキャッチフレーズでなく、私はもっと勇気と覚悟をもって力強いキャッチフレーズ、計画にすべきと思う！これからの5年間は勝負だ！</p> <p>①だんだん人の心は村から離れる 約40年前、真野ダムの時、ダム御殿と擲揄されたが、いま村内がそのように見られている。心を1つにしていく施策を！</p> <p>②村の財政は火の車のはず いまハード事業を次々とやっているが、投資的経費をふくらませ、義務的経費を見えなくしているが、ランニングを考えると火の車では？ 数字はつくりよう。</p> <p>2.計画の理念は 総合計画は基本構想と基本計画と過疎計画から作られる。今回配布になったのは基本計画の重点事業だけ。全体がボヤけて見えるのは、いまの時代の基本認識やかかえている課題、さらに危機的状況を説明していないことにある。 まず、①人口の設定を！ 自分たちはどれくらいの大きさの車に乗ろうとしていますか。軽ですか。大型車ですか。お金はなんぼかかって、どんな準備をすればいいのですか？！三宅村は6～7割だった。段階的な人口設定をすべきだ！ 次に、②土地利用計画 村の従来の子づくりの拠点である草野・飯樋・白石・二枚橋ですが、今回の県道改修や解体で大きく変わろうとしています。深谷の拠点整備を含めて、村をどのように創ろうとしていますか？今回の計画に入れるべきです。 村長は20年の実績をアピールするのは勿論でしょうが、村外の何人かのアドバイザー、コンサル、研究所まかせではなく、前期5年間、国・県・村民に向けての構想、理念を力強く出すべきです。</p> <p>3.農業振興 まず①村全体の土地利用計画をつくり、特に農業では農振の見直しをすべきだ！ 6月議会で景観条例の見直しを聞いた。この条例を改正する前に村全体の土地利用計画と農振計画の見直しをしてからでないと整合性が取れなくなる。 次に②商工観光係について。 議会での質問もあったけど“観光は後からついてくるものだ”と思う。5次総を作るときに私を含めて3人でドイツ・フランス・イタリアにいかせてもらった。特にアグリツーリズムは“農業が雇用をつくりそ</p>	<p>算」、村外居住や二地域居住の方が村づくりに関わりやすくなる仕組みづくり等は「ちょっと住む～」のフレーズに沿った重点事業等に含まれております。</p> <p>○計画の理念等について 人口、村内居住人数等については推計が困難であること及び帰村の強制という誤解を招く恐れがあることから目標等の設定は行いませんでしたが、今回の計画策定については現在の人口及び村内居住人数を想定して検討を行いました。計画の実施段階では、帰村や移住の状況を踏まえながら事業内容を随時検証するとともに、令和5年度には計画全体を見直す機会を設けます。また、土地利用計画については、重点事業である「行政区地区別計画の策定」による行政区の地区別計画を策定する中で、各行政区と話し合いながら策定を行います。</p> <p>○農業振興等について 土地利用計画については上記のとおりです。また、いいたて美しい村づくり推進条例については、各地域の具体的な土地利用等は定めておらず、今回の計画を実施する中で景観計画として順次策定を行う予定です。農業振興につきましては、「飯館産米活用推進事業」や「新規就農者等ステップアップ支援事業」、「畜産農家増加推進事業」等の重点事業をはじめとして、今回の計画でも強く推進いたします。</p>
--------------------------	---	--

<p>その他、計画全体について等 4/4</p>	<p>れによって農業収入が上がり、農村風景が観光資源となり、観光は後からついてくるもの！！だと確信しました。</p> <p>研究所、コンサルまかせでなく、村内の営農組合にもっと支援をして農家が共存できるように作り上げていくものだと思う。いま、立ち上がろうとしている営農組合、農家に支援を！！川内村はコツコツと農業基盤を作っている。</p> <p>4.教育</p> <p>6月議会の一般質問で、村の教育の特長とはの質問に遠藤教育長は私見と述べていましたが、村には“飯舘村学校教育ビジョン”があるはず。特に震災前から村が取り組んできた“飯舘型授業スタイル”飯舘スタンダードがあります。授業では“問題をみつけ 話し合い まとめ 発表する力”を育む学習発表会を見ても、それが生かされ結果を出していた。それを継続していたのです。</p> <p>さらに、多くの外からの力を借りながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ふるさと教育</li> <li>2. 読書、読み聞かせ</li> <li>3. 国際理解教育</li> </ol> <p>等は引き続き重点事業に入れるべきと思います。</p> <p>はなまる学習は何故やめてしまったのですか。高校入学も順調だったのに！ブロンズより安い。何年も出来たはずです！学校ではなまる学習は塾の役割をしていたのに！残念です。</p> <p>5.防災計画</p> <p>昨年から言ってきた防災計画。いまだに策定されていないが、昨年大倉行政区は台風19号の直撃を食らい、60ミリの大雨にみまわれ被害も大きかった。プラス、今年は秋口からコロナの第2波が懸念される中で、避難の仕方、避難場所・ルート、さらにはコロナ対策と、話し合いをしておかないと出来ないを考える。</p>	<p>○教育等について</p> <p>村では「飯舘村教育委員会学校教育グランドデザイン」に基づいて義務教育学校のメリットを生かした教育活動を行っていますが、本年度についても「飯舘型授業スタイル」による授業実践を実施しております。また、ふるさと教育及び読書・読み聞かせについては重点事業を設定したほか、国際交流プログラム等についても計画に記載しました。</p> <p>○防災計画等について</p> <p>村全体の防災計画は本年度に策定が完了する見込みです。また、「地域防災力向上事業」として行政区ごとの避難計画・ハザードマップを作成や人口減少・高齢化を踏まえた地域防災体制の再構築を目指す重点事業を設定し、行政区と話し合いながら防災事業を進めます。</p>
--------------------------	---	---